

第2回仙台市交通局中期経営計画検討委員会における議論のポイントについて

NO	外部委員意見 (ページは議事録)	中間案該当箇所	中間案における対応	素案該当箇所
1	P.10 成田委員 市バス・地下鉄の財務状況の表で、当年度純損益を見て赤字が1億円しかないように誤解される。 補助金31億円をもってなお赤字という実態が伝わる表現にした方がよい。	P.10 第2章 2-4 (2)	・表の項目を、「6-3 収支見通し」と合わせ、一般会計補助金が営業外の収益であることを明確にしました。 ・自動車運送事業の表の説明を以下のように変更しました。 「収支については、営業収支が毎年30億円超の赤字となっていることから、年間約30億円という極めて高い水準の一般会計補助金を繰り入れてもなお、当年度純損益が赤字となっており、厳しい経営状況が続いています。」	P.8 2-4 (2)
2	P.14 鈴木委員 コロナ影響について利用客の内訳や時間帯の内訳も示したほうがよい。	P.21 第3章 3-4	利用者数の対前年比較について、時間帯別、曜日別の内訳を追加しました。	P.15 3-4
3	P.29 岡田委員 第3章で課題に挙がっていない安全・安心が、第4章で施策の柱に挙がっており、つながっていない。 P.29 鈴木委員 第3章から第4章のギャップが大きい。 P.30 鈴木委員 4-1の文章を厚く記載しても読みづらくなるだけなので、3-4コロナの前に「一般的な課題」ということで記載すると良いのかなと思う。	P.1 第1章 1-1 P.22 第3章 3-5	「1-1 はじめに」を追加し、交通事業者が当然に果たすべき責務である安全、安心や快適なサービス等を記載しました。 第3章と第4章のつなぎとして、「3-5 課題等への対応の方向性」を新規に追加し、交通事業者としての責務を示しつつ、3-1~4に掲げた課題への対応の方向性を加えることで、第4章につながるようにしました。	第3章・第4章
4	P.27 成田委員 「4-2」「5」の立て付けに関して、「4-2」で施策の柱の大きな目標とか目指すところを記載し、「5」で具体の施策を書く、という形にすると読み手としては分かりやすい。	P.25~P.26 第4章 4-2	4-2は、各戦略の「目指すべき姿」「取り組みの概要」を記載する個所に変更し、「5」で具体の取組みを書く形に変更しました。	第4章・第5章

NO	外部委員意見 (ページは議事録)	中間案該当箇所	中間案における対応	素案該当箇所
5	P.31 長江委員 施策の柱が、第4章では1と記載されているが、第5章では5-1となっている。表現を合わせたほうがいい。	第4章 第5章	記載を第4章、第5章とも「戦略1」「戦略2」「戦略3」「戦略4」に統一しました。	第4章・第5章
6	P.15 岡田委員 「本市のあらゆる施策を動員し」は、市民の過度の期待を招くのではないかな。	P.23 第4章 4-1 (1)	交通局及び仙台市が一丸となって、バリアフリー、モビリティ・マネジメント、福祉、観光、MaaS等様々な施策を通じて利用促進に取り組んでいくこととしていることから、素案のと通りの表記としています。	P.16 4-1 (1)
7	P.15 岡田委員 「安心・安全を最優先に便利で快適なサービス」とあるが、廃止エリアが出てくることを考えると必ずしも「便利で快適な」ということにはならないので、表現を気を付けるべきではないかな。	P.23 第4章 4-1 (1)	「便利で快適なサービスを『提供することで』」としていた箇所を「提供しながら」に修正しました。	P.16 4-1 (1)
8	P.31 長江委員 取組に記載されている市バス、地下鉄、共通のマークは、取組単位では必ず市バス、地下鉄両方が記載されているので、記載不要。	第5章 各取組	ご指摘のマークを削除しました。	第5章
9	P.18 成田委員 複合災害への対応についても記載した方がよい。	P.31 第5章 戦略1 取組2	複合災害への考え方を補足説明として記載しました。	P.17 4-2 1 取組2
10	P.26 成田委員 交通局の取組について、市民を交えて積極的に議論していく姿勢を示すとよい。	P.37 第5章 戦略2 取組1	事業内容に「広聴機能の充実」を追加しました。ご意見メールでお客様の意見に積極的に対応していくことを示しています。	第4章・第5章
11	P.32 長江委員 「他の交通機関」と書いてあるが、まず地下鉄とバスの乗り継ぎを第一に記載すべき。	P.39 第5章 戦略2 取組2	取組みのタイトルを「バスと地下鉄との連携強化」に変更し、地下鉄とバスの乗継ぎについて重点的に記載することとしました。	P.23 5-3 取組2

NO	外部委員意見 (ページは議事録)	中間案該当箇所	中間案における対応	素案該当箇所
12	P.19 長江委員 自転車との連携についても記載があるとよい。	P.39 第5章 戦略2 取組2	「バスと地下鉄の連携強化」の施策に、「また、JR線、地域交通、シェアサイクル等多様な交通機関との連携も検討していきます。」と記載しました。	P.18 4-2 3 取組2
13	P.33 成田委員 利用者は、必ずしも健康な男性成人だけではない。NP0との連携であるとか、女性の声をどう吸い上げていこうとか、そういう努力をどこかに市民に示していくとより共感が得られるのではないか。	P.39～P.41 第5章 戦略2 取組2 P.42～P.45 第5章 戦略3 取組1 P.37 第5章 戦略2 取組1	事業内容の戦略2 取組2「利用しやすい環境整備」や戦略3 取組1「まちづくりとの連携・社会への貢献」において、多様な方々に快適に利用いただくための取組みを追加しました。 また、取組みに「広聴機能の充実」を掲載し、広く利用者の声をお聞きしていく姿勢を示しました。	第4章・第5章
14	P.21 岡田委員 南北線車両更新は、古いから更新というだけでなく、サービス向上のニュアンスを加えられるとよい。	P.41 第5章 戦略2 取組2	事業内容に「南北線車両更新に合わせた利便性向上」の項目を設けました。	P.17 4-2 1 取組3
15	P.23 鈴木委員 バリアフリーは施策2「利用しやすい環境整備」に書くほうが具体的にアクションとして見えてくると思う。	P.42 第5章 戦略3 取組1	バリアフリーへの取組みは、仙台市バリアフリー基本構想を上位計画としており、仙台市全体の取組みへの参画という側面があることから、「戦略3 まちづくりへの貢献」への掲載としました。	P.18 4-2 2 取組2
16	P.19 長江委員 まちづくりとの連携施策は、誰がイニシアチブを取って進める施策なのか分かるように記載した方がよい。	P.42～P.45 第5章 戦略3 取組1	市役所各局が“主”である取組みについては「〇〇施策への貢献」、MaaSにおいては「積極的に参画」とするなど、取組みによって書き分けを行いました。	P.18 4-2 3
17	P.25 鈴木委員 オープンキャンパス等、大学との連携も行っているの で、施策に記載していただくとよい。	P.46 第5章 戦略3 取組2	事業内容に「大学・高校等との連携」を追加しました。 オープンキャンパスでの学都仙台フリーパスPR等、公共交通による通学利用促進を継続して行うことや、入試時の増便対応等を記載しています。	P.18 4-2 3 取組2

NO	外部委員意見 (ページは議事録)	中間案該当箇所	中間案における対応	素案該当箇所
18	P. 31 成田委員 「4－2」柱4の取組1は項目多すぎる。もう少し構成を見やすくした方がよい。	P. 48～P. 51 第5章 戦略4 取組1	第5章の戦略4 取組1については、下記により項目を分類・整理しました。 (1) 市バス事業の経営改革 (2) 経費削減 (3) 投資抑制 (4) 増収	P. 19 4－2 4 取組1
19	P. 11 成田委員 公共交通空白地有償運送など地域交通にいろいろな方法があるということを示した方がよい。	P. 48 第5章 戦略4 取組1	国土交通省資料「地域の移動を担う交通手段」を掲載しました。	P. 12 3－2 (1)
20	P. 35 長江委員 6－2 収支見通しの注記に「令和8年度に7%」改定と書いてあるが、算定条件の中に入れるべき。	P. 49 第5章 戦略4 取組1	第5章事業内容の「市バスの運賃設定」の箇所に、下記を記載しました。 ・令和8年度に7%の改定を行うことで資金不足比率を20%未満に抑制できると試算していること ・実際の改定時期や改定幅は、今後、各種取組みによる収支状況や新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえて決定していくこと	P. 26 6－2
21	P. 35 岡田委員 一般会計補助金2030年度で22億円に減少する見込みとなっているが、課題が解消されたと読むのか、それとももっと抑制したいがこの金額となっているのかを示すとよい。	－ (P. 49 第5章 戦略4 取組1)	公営企業は独立採算を基本とすることから、一般会計補助金はゼロが本来目指すべきところと考えています。しかし、経営状況の厳しさもあり、第6章の収支計画に示したとおり、一定規模の補助金を繰り入れざるを得ないと考えており、一般会計補助金繰入額については「抑制」という表現に留めています。	P. 26 6－2
22	P. 32 長江委員 人材確保に関連して、職業体験やインターンの取り組みを施策として検討願う。	－	現時点で職業体験やインターンを強化していくなどの計画はないことから未掲載となっていますが、計画期間中に実施機会があれば取り組んでいきます。	P. 24 5－4 取組2

NO	外部委員意見 (ページは議事録)	中間案該当箇所	中間案における対応	素案該当箇所
23	P. 33 成田委員 今日の交通局職員はすべて男性である。女性の声を吸い上げていくことも実施してほしい。 P. 34 鈴木委員 女性の運転士や駅員が多くなっているの、局内でも幅広い意見を拾えるようにするとよい。 P. 35 小泉委員 計画作成においても、交通局の職員にもっと女性が加わっていた方がよい。	P. 53 トピック	計画は局内に広く意見を求めながら作成しており、また策定作業には女性職員も携わっておりますが、ご指摘のとおり外からは女性の姿が見えにくい状況だと思います。直接ご指摘にお応えするものではありませんが、第5章の後ろにトピックとして女性の運輸職員の活躍の広がりについて掲載しました。	第4章・第5章
24	P. 30 岡田委員 なんでその取り組みが必要なのか、その課題をどの程度解消するもので、どの程度の予算規模の感じ、10年間のいつ頃やるのか、というイメージが持てるように記載してほしい。	P. 55 第6章 6-2	取組の必要性や、どこまでの効果が見込まれるかは、第5章の各取組みの中で記載しています。 予算規模については、第6章に投資計画を新規追加して示すこととしました。	第5章
25	P. 13 成田委員 「1日平均乗降人員」について、H30以前のデータが載っていないので、第6章「財政収支計画」の見通しと比較できない。	P. 59 第8章	「8章 資料」に、令和2年版 事業概要の創業以来の運輸成績（P29～33）を掲載し、H30以前のデータを参照できるようにしました。	-